

## 慢性看護の知と技をつなぐ場の共有をめざして

7月になりました。

前回更新からあつという間にひと月がたち、関東では6月29日に梅雨明けが宣言されました。

学会誌とともに抄録の送付をいたしました。学会員、参加事前登録の皆様のお手元にお届けすることができました。また、会場担当の先生方が会場・受付・企業展示・ランチョンセミナー・懇親会などの準備をことこまやかにしてくださいました。

改めて多くの皆様のお力をお借りして、準備が進行していることを実感いたしました。

会場担当の先生方が作成してくださったマニュアルをもとに学術集会在運営されます。これで、学会に参加される皆様をお迎えする準備が大方整いました。

学術集会の内容をこれまで、ご紹介してきましたが、今回はシンポジウムです。

テーマは「慢性看護の知と技をつなぐ場の共有～病いの体験を生きる人を支える看護師の語りから知と技を紡ぐ」です。シンポジストは長く大学院でCNSやNPの教育に当たられた野川道子先生、臨床家として急性・重症患者看護専門看護師の福田友秀氏・慢性疾患看護専門看護師の竹川幸恵氏・和田由樹氏です。臨床家と教育・研究者というお立場から興味深いお話を伺うことができるのではないかと楽しみです。

私は、臨床で長く働いてきました。救命救急センターに搬送された患者さんの状態やケアを看護師から聞くたびに、急性期は慢性期への入り口であると実感しました。

たとえば、事故によって下肢切断となってしまった患者さんの命が助かり状態が安定すると、下肢がない身体で生活を整えてゆくことを余儀なくされます。そのことは生涯にわたり続いていくため、その時々で慢性看護が必要になるのではないかと思います。シンポジストの皆様の抄録を拝見すると、実践を仲間と検討することによる新たな発見や人々との共存する力などについて述べられています。

多くの皆様と慢性看護の知と技をつなぐ場の共有になればと心より願っています。

平成30年7月1日 東めぐみ



6月30日夕方の  
東京タワー